

# 避難訓練・救急救命訓練

8月の後半は避難訓練救急救命訓練を15日19日23日の3回にわたり行いました。

15日は消防に提出する夜間帯を想定した避難訓練利用者さんも参加してタイムを計りながら行いました。出火場所もボイラー室や厨房が多かったのですが、昨年度から利用者さんの居室ないなども仮定して行っています。出火場所によって避難する出口が変わるのですが、利用者さんも落ち着いて参加されています。避難口は毎回変わるのですが、建物から出たら国道沿いにある地域交流センター前に逃げるようにしています。



下あごを前に出し、両肘を曲げて上側の手をあごの下にあてがい、後ろに倒れないようにする。

口のなかに吐物などが見えたら、反応のある傷病者の場合では吐き出すように指示する。特別な異物の除去は行わない。

反応がなく、正常な呼吸がなくなれば心肺蘇生法の手順を実施する。

19日は看護師の解説を入れながら「てんかん」についてのDVDと利用者さんが倒れた時の意識がある際の回復体位や模型を使って気道確保についてなどを学びました。

23日の午前中は、各棟から3名参加してもらい職員6名と防災委員で避難訓練のシミュレーションを行いました。こちらも夜間想定で行いました。色々な想定を考えながら意見を出し合いながら行うことができました。

23日の午後は、救急救命のシミュレーションを窒息の可能性が一番高い各棟の食堂で行いました。朝食の時間を想定して利用者さん役は蘇生人形のアン氏に協力をしてもらいました。食事中に喉つまりを起こしたときにどのようにどの順番で応援連絡をするのか？駆け付けた職員は何をするのか？緊急時のグッズ（AEDや吸飲グッズなど）の確認などを行いました。

実際に喉つまりの利用者さんに対応している職員はかなりパニックになりながら対応をしているはずなので、駆け付けた職員が、「消防への連絡」「AEDはどうしているか」など積極的に話かけることを確認しました。

